

「信金に強盗」想定 職員らが防犯訓練

多治見市

多治見市若松町の東濃信用金庫若松町支店で、強盗が押し入った想定を防犯訓練が行われ、同金庫職員約40人が防犯意識を高めた写真。

訓練は多治見署が協力し、高額取引が多くなる年



末年始を前に毎年実施。今年と同支店職員が参加したほか、市内の本店や支店の職員も見学した。

サンガラスや仮面を装着した強盗役の署員3人が支店の通用口から侵入。対応した職員1人を人質に取り、偽物の拳銃やショットガンを手に「金を出せ」と迫った。3人が店外へ出た後、職員は分かれてカラーボールを手に追跡したり、記憶した犯人の人相をシートに記入したりした。

訓練後、見学した署員は「犯人の視点で支店の防犯体制を考えてもらいたい」などと講評した。

(山本貴史)